

## 鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成27年度)

## 〔概要版〕

## 1. 運転事故

- 平成27年度に発生した運転事故は、件数が727件で対前年度31件(4.1%)減、死亡者数が286人で同1人(0.3%)減でした。(表1参照)
- 乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表1：運転事故の件数及び死傷者数(平成27年度)

	件数 (対前年度)	死亡者数 <sup>※6</sup> (対前年度)	負傷者数 <sup>※6</sup> (対前年度)
列車事故 <sup>※1</sup>	10件 (△2件)	0人 (△2人)	19人 (△17人)
踏切事故 <sup>※2</sup>	236件 (△12件)	101人 (+9人)	62人 (△57人)
うち踏切障害に伴う列車事故 <sup>※3</sup>	0件 (△2件)	0人 (△2人)	0人 (△6人)
道路障害事故 <sup>※4</sup>	63件 (+15件)	0人 (△2人)	23人 (+10人)
人身障害事故 <sup>※5</sup>	416件 (△33件)	185人 (△8人)	235人 (△23人)
うちホームでの人身障害事故	198件 (△29件)	28人 (△6人)	170人 (△24人)
物損事故	2件 (△1件)		
合計	727件 (△31件)	286人 (△1人)	339人 (△81人)

※1 「列車事故」は、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。 )及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

※2 「踏切事故」は、踏切障害に伴う列車事故と踏切障害事故をいいます。

※3 「踏切障害に伴う列車事故」の件数等は、踏切事故の内数であり、列車事故にも重複して計上されています。合計の件数等は、この重複を除いたものです。

※4 「道路障害事故」は、踏切道以外の道路において、列車又は車両が道路を通行する人又は車両等と衝突し、又は接触した事故をいいます。例えば、走行中の路面電車に自動車接触した事故等が該当します。

※5 「人身障害事故」は、列車又は車両の運転により人の死傷を生じた事故(列車事故、踏切障害事故、道路障害事故を除く)をいいます。

※6 運転事故による死傷者数には、自殺によるものは含めないこととしています。また、自殺の行為に直接的に巻き込まれたことにより第三者が死傷した場合についても、同様な扱いとしています。例えば、ホームからの飛び込み自殺により、ホームにいた第三者が巻き込まれるなどといった場合が該当します。

図1：運転事故の件数及び死傷者数の推移

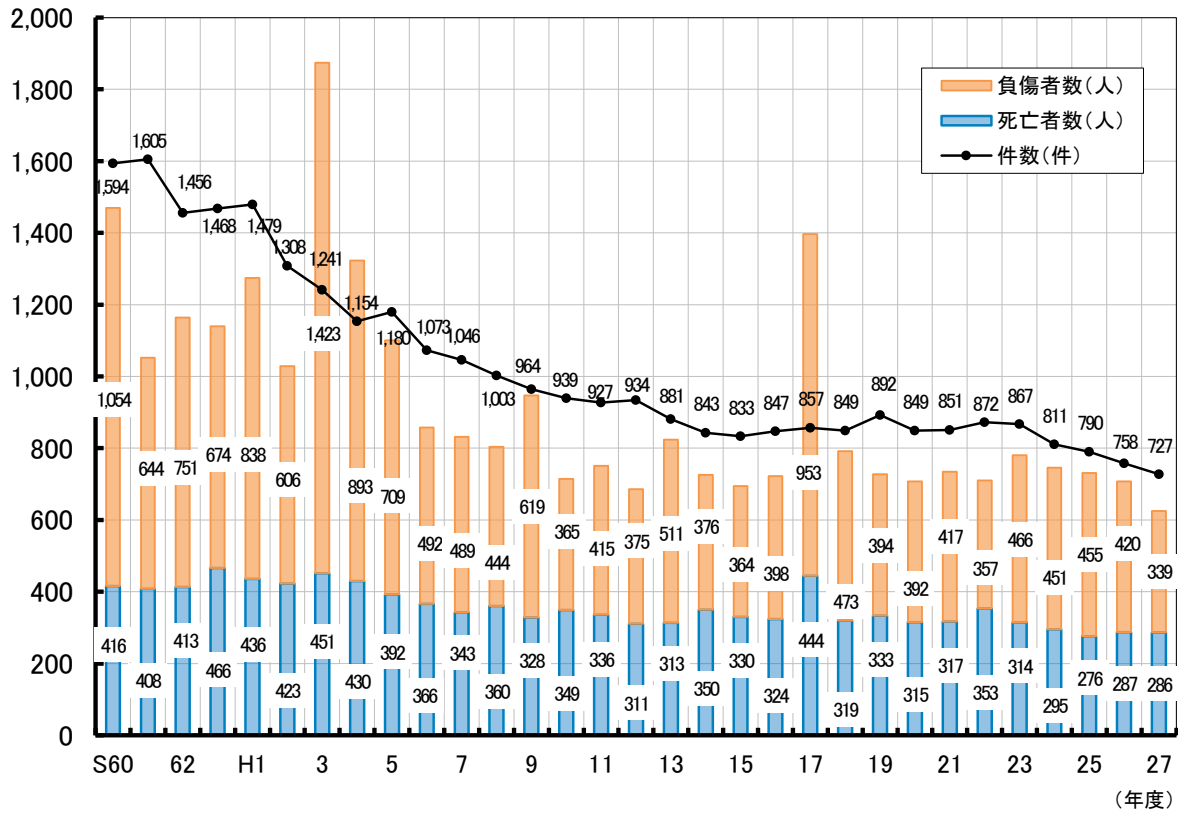
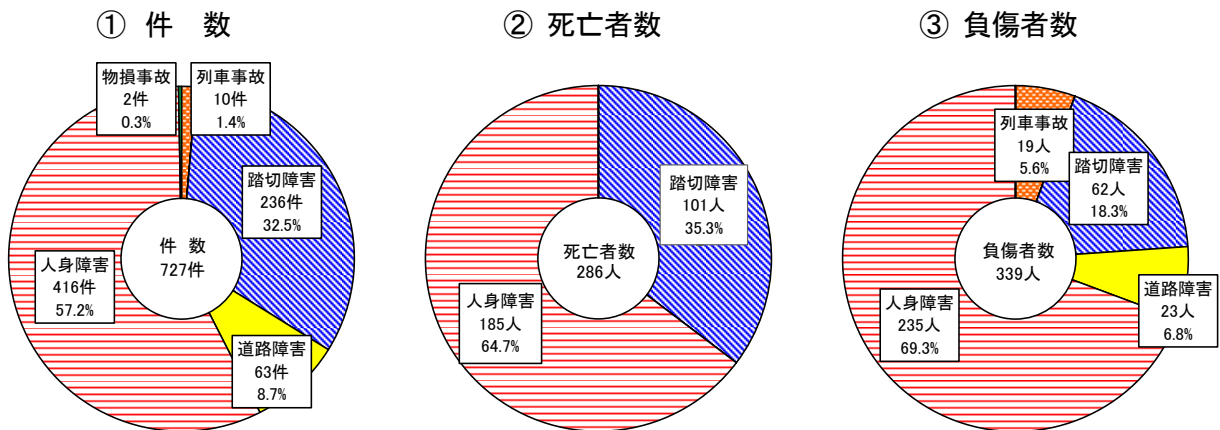


図2：運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成27年度)



## 2. 踏切事故

○平成27年度に発生した踏切事故は、件数が236件で対前年度12件(4.8%)減、死亡者数が101人で同9人(9.8%)増でした。(表1参照)

○直前横断による踏切事故は、件数が130件で対前年度13件(11.1%)増となっています。

図3: 踏切事故の件数及び死傷者数の推移

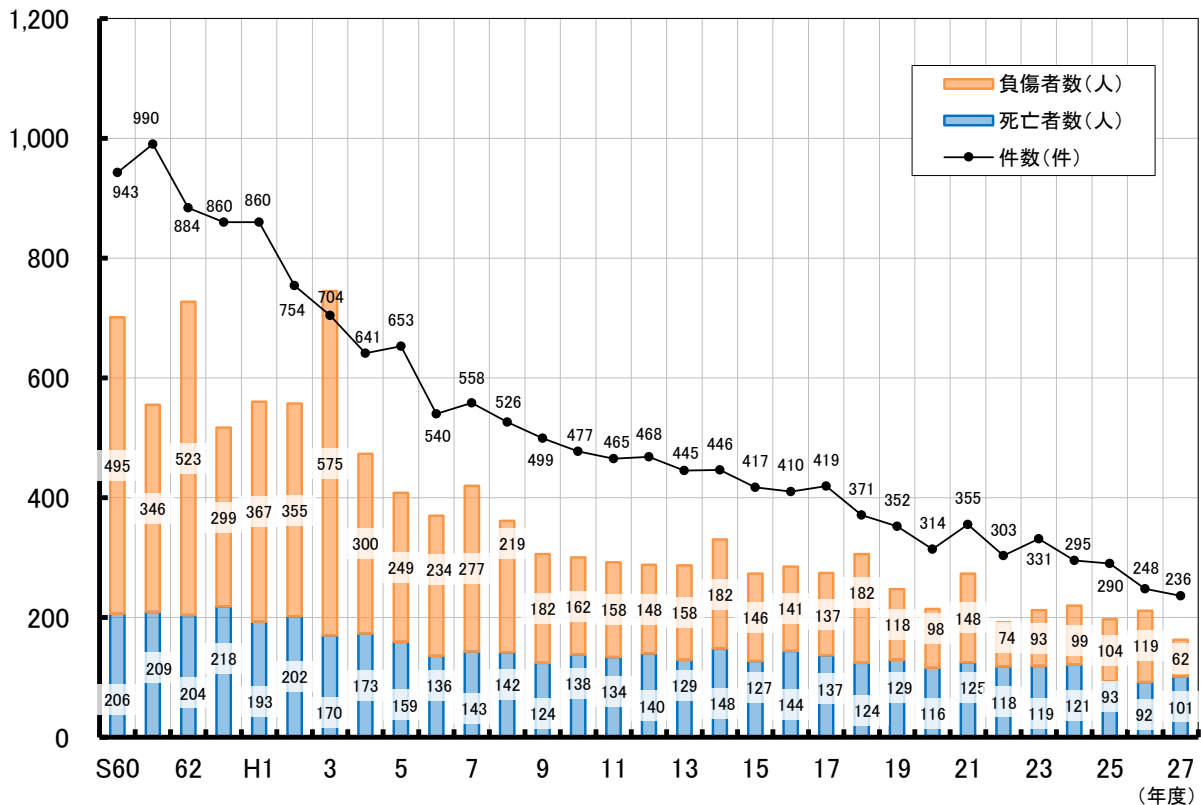
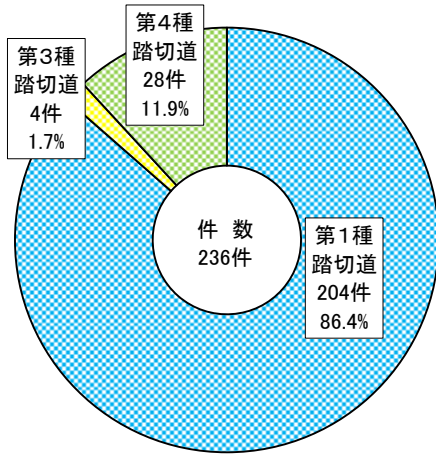
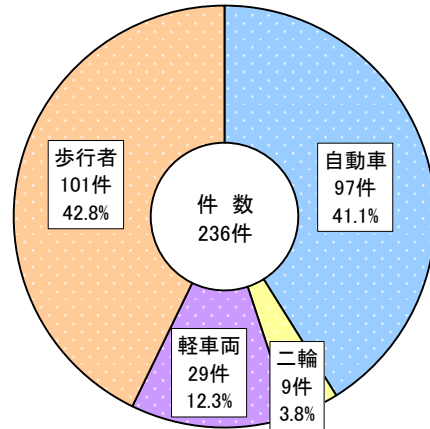


図4 踏切事故の発生状況(平成27年度)

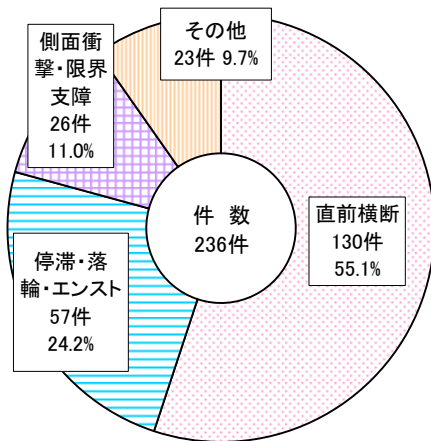
① 踏切種別別



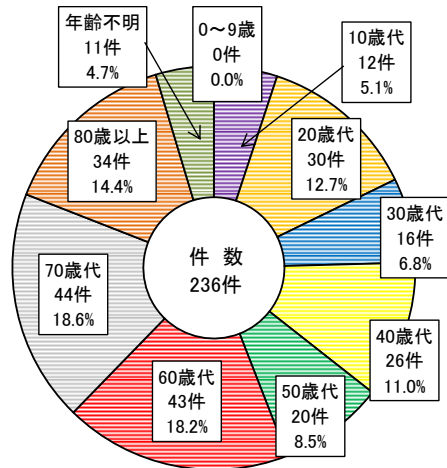
② 衝撃物別



③ 原因別



④ 関係者年齢別



### 3. 人身障害事故

- 平成27年度に発生した人身障害事故は、件数が416件で対前年度33件(7.3%)減、死亡者数が185人で同8人(4.1%)減でした。(表1参照)
- 線路内立入り等での接触による人身障害事故は、件数が207件で対前年度増減なし、死亡者が154人で同2人(1.3%)減となっています。
- 「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」による人身障害事故は、件数が198件で対前年度29件(12.8%)減、死亡者数が28人で同6人(17.6%)減でした。

図5: 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移

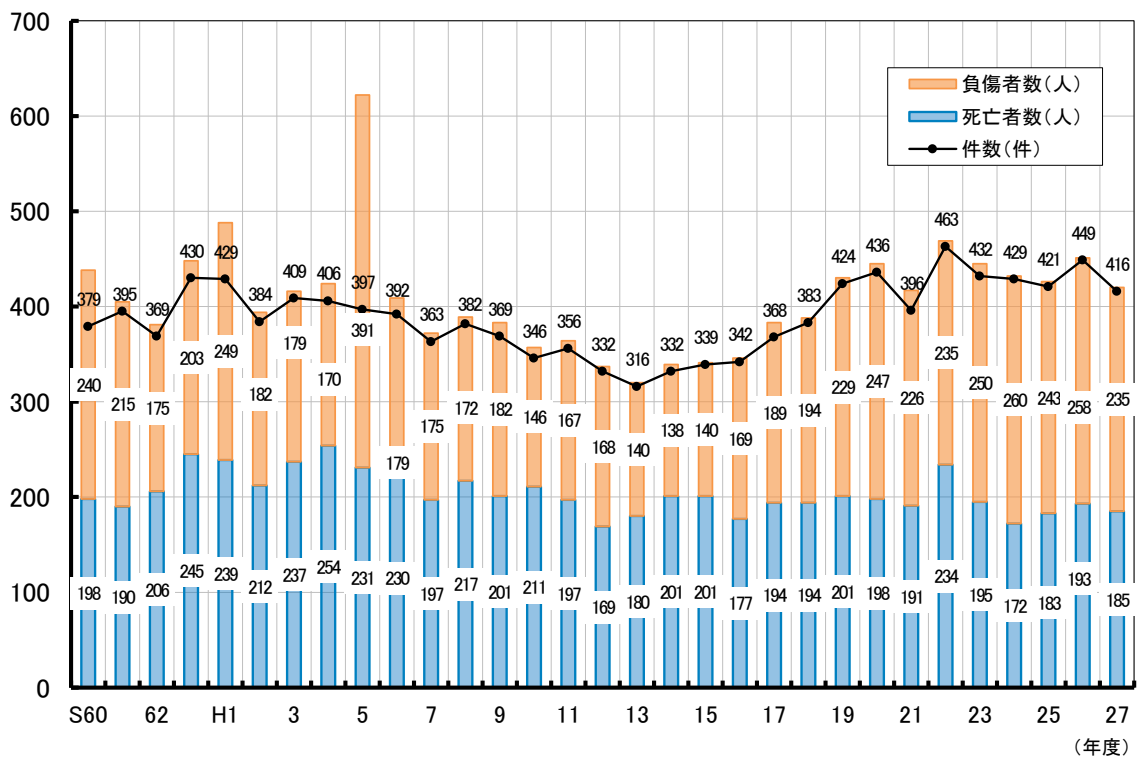


図6：人身障害事故の原因別の件数及び死傷者数(平成27年度)

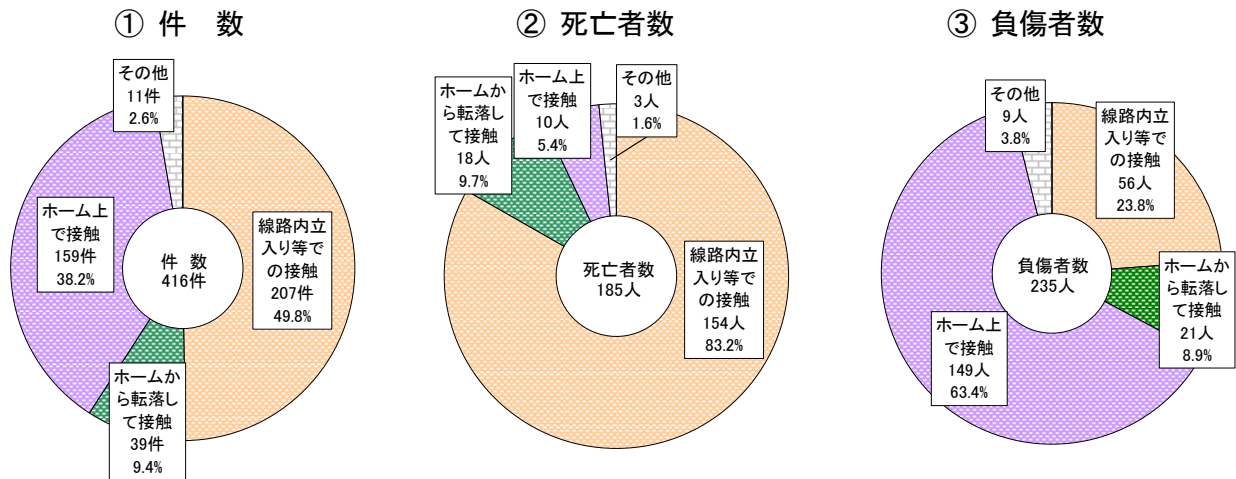
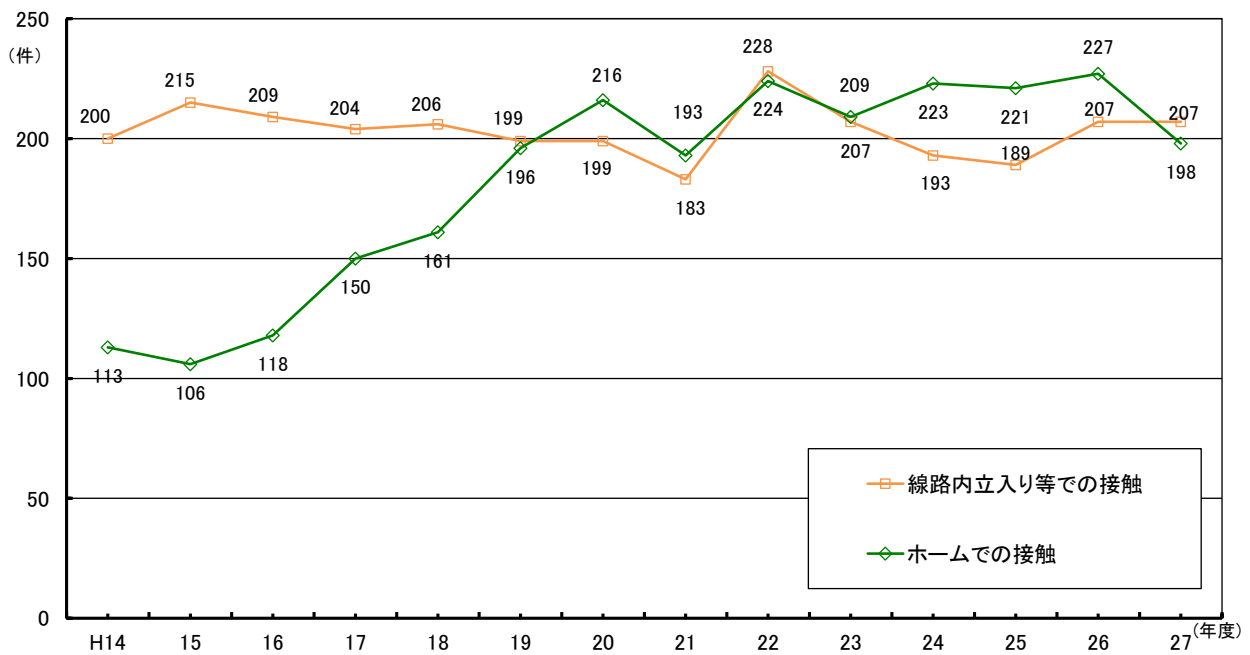


図7：ホームでの接触及び線路内立入り等での接触による人身障害事故件数の推移



※1 「線路内立入り等での接触」は、線路内立入による接触及び構内通路直前横断による接触をいいます。

## 4. 輸送障害

- 平成27年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は4,733件で対前年度558件(10.5%)減でした。(図8参照)
- 部内原因(鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因する輸送障害)は、1,430件(輸送障害全体の30.2%)で対前年度119件(7.7%)減でした。このうち、鉄道係員に起因するものが233件で同8件(3.3%)減、車両に起因するものが779件で同50件(6.0%)減、施設に起因するものが418件で同61件(12.7%)減でした。
- 部外原因(線路内立入り等による輸送障害)は、2,017件(輸送障害全体の42.6%)で対前年度21件(1.0%)減でした。このうち、自殺によるものは537件で同13件(2.5%)増、動物によるものは428件で同115件(21.2%)減でした。
- 災害原因(風水害、雪害、地震等の自然災害による輸送障害)は、1,286件(輸送障害全体の27.2%)で対前年度418件(24.5%)減でした。このうち、風水害によるものが655件で同226件(25.7%)減、雪害によるものが166件で同115件(40.9%)減、地震によるものが38件で同7件(15.6%)減でした。

図8：輸送障害件数の推移

